

変化に対応するATACの新たな企画 (ATAC15周年記念講演会での主張と決意)

財団法人 大阪科学技術センター ATAC
ATAC運営委員長 梶原 孝生

平成18年10月26日のATAC15周年記念講演会は多数の参加を得て、期待以上の盛会となって参加者に喜んでいただき感謝しています。

その中で、ATAC会長古池進の挨拶と、副会長荒川守正の「ATACの原点とその後」と題する講演を行いました。それらのスピーチのほかに、最後にATAC全員が登壇して、決意表明を行いました。この一連のATAC発言の一部を引用して、ATACの新たな企画として以下のようにまとめました。

21世紀に入って、すべての産業がものすごいスピードで大きく変化しています。特にものづくりは激しい変化と競争の世界です。

例えば造船・鉄鋼など古くからある業界も近年は技術革新によって従来とは全く違う新しい技術と品質でものづくりを行っているので、現在の復活を果たしたのです。

今までなら、一つの技術で、10年～20年は企業の大きな柱として成り立っていましたが、今や、ある日突然、音を立てて崩れ落ち、新たな技術に取って代わる時代です。

これは電機業界など他のものづくり業界も同様で、すべての企業は非常に危機感を持って新しい事業を興そうと必死に新たな投資を行っています。最も大事なものは人材投資であり、時代に即応した人材を育成することです。

これは、大企業から中小企業まで例外はありません。



▲決意表明の様子

中堅・中小企業を支援するATACはこのような時代の趨勢に応じて、最近、新しい人材を加え、変化に即応できる体制を整えてきました。新しい時代に即応した中小企業への転換・改革にATACの人材を利用させていただくためです。

現に、新たな企業や地域のニーズに応じて、中小企業の新事業開発にも数々の実績を挙げつつあります。例えば、沖縄県特産の海藻「もずく」と北海道の製麺技術との共創で新しい麺産業界を沖縄県に興す事業を支援しており、その試作品を15周年記念講演会の参加者に配布しました。

また、愛媛県のみかん皮を製紙に利用する廃棄物リサイクル技術の開発による新たな産業創出の企画も着々と進めています。

これらの新しい企画と共に、個々の中小企業に対する一般のコンサルティングや開発協力も従来以上に充実することを全員で決意したのです。

コンプライアンス&リスクマネジメント

松下電器産業 株式会社 理事 村田 恒子氏

ATAC15周年 記念講演会

◆企業不祥事の原点

最近、企業の不祥事が多発し、トップが謝罪する映像がしばしばテレビ画面に出てきます。10年間に企業不祥事で100人以上のトップが辞任している上に、不祥事の類型も多様化し、総会屋への利益供与・インサイダー取引・入札談合・粉飾決算・品質問題隠し・環境汚染など多岐に亘る不祥事が発生しています。

相次ぐ不祥事の共通点として、法律違反、社会常識の欠如・対応の遅れが挙げられますが、いずれも企業と社会常識の乖離と言えます。

◆変化の時代

このような状況の中で「企業の信頼感の維持・向上に重要なものは何か」というアンケートに対して、1位は「企業倫理の確立と順守」で52%を占め、単に結果が良ければという「結果責任」から、そのプロセスも評価される「結果責任もプロセス責任も」と企業への社会的期待の変化が見られます。このように社会の価値観と企業の価値観のギャップが発生してコンプライアンス（法令順守の管理体制）が企業経営の重要な要素となり、法令順守は最低基準となりました。

◆企業の内部統制とCSR

法令順守のためには内部統制が必要で、これによりCSR（Corporate Social Responsibility）=企業の社会的責任を果たすのです。

企業活動は従来経済優先であったが、社会的側面、環境的側面も同じように大事にしていこうということです。

松下幸之助氏は昔から「企業は社会の公器」とし、企業は事業を通じて社会に貢献する事を社会的責任として下記の3原則を銘記しています。

1. 企業の本来の事業を通じて、社会生活の向上、人々の幸せに貢献していくこと。
2. その事業活動から適正な利益を生み出し、それをいろいろな形で国家社会に還元していくこと。
3. そうした企業の活動の過程が、社会と調和したものでなくてはならないこと。

◆リスクマネジメント

リスク(risk)の語源はイタリア語riscareで「勇気をもって試みる」という意味ですとの説明の後、リスクの定義について明解に下記のように示されました。企業におけるリスクとは

- 災害・事業リスク～地震・台風・火災・テロ他
- 政治・経済・社会リスク～戦争・企業脅迫・誘拐他
- オペレーショナルリスク～PL・リコール、ご不満対応
 - ～知財権侵害、独禁法違反
 - ～営業秘密漏洩、プライバシー侵害
 - ～環境汚染、不良債権
 - ～技術開発遅れ・生産遅れ他
- 市場環境リスク～市場価格下落・他社との競争激化



▲講演を行う村田氏

企業における事業リスクとは

- 事業計画の方針・重点施策の推進を阻害する発生不確実な事象
- 中期計画の戦略テーマの推進を阻害する発生不確実な事象

◆情報セキュリティ

個人情報の流出による膨大な賠償額のデータを示し、情報セキュリティの大切さを説明されました。

情報セキュリティの対象範囲は技術情報・営業情報・個人情報で、お預かり情報と自己情報があります。お預かり情報の漏洩は会社の信用失墜に繋がり、自己情報の漏洩は競争力の低下に繋がってきます。

更に、サムソン・IBM・キャノンを例に挙げて情報セキュリティレベルの高い企業が営業利益率も高いことを図示されました。

情報は壁に囲まれているとすれば、一箇所壁の低いところがあると、そこから情報がジャジャ漏れになるので、全社的な情報セキュリティ運用管理強化が必要です。情報セキュリティは経営品質そのもので、認識の甘さ・煩雑と思う心が命取りになります。そのため、全員の意識改革・風土改革によって、社員を信用できる情報管理風土を確立する必要があります。

◆コンプライアンス（法令順守の管理体制）の強化

10年ほど前までは法令違反は珍しかったが、談合事件の多発など、違反が増えると共に独禁法、会社法、外為法等、企業に関連する法令も厳しくなり「知らなかった」では済まされない時代です。

コンプライアンスの語源は「充足・調和すること」で単なる「法令順守」ではなく、社会からの要請に応え、組織の目的を実現することこそコンプライアンスの実践であり、全てにおいて、コンプライアンスが優先し、違反を「しない風土」と「させない仕組みづくり」が大切です。

「めざす姿はコンプライアンスとリスクマネジメントによって得られる企業価値の向上です」と結んで終わりましたが、堅苦しい法令の話の多数の画面で分かりやすく説明され、企業の社会的責任の大切さがよく理解できて時代に即した意義ある講演であったと好評を博しました。（田頭記）

JR福知山線脱線事故における民間企業の救援活動

「何故、特別に訓練を受けていない普通の社員にこれだけの人助けができたのか」
日本スピンドル製造 株式会社 社長 齊藤 十内氏



ATAC15周年 記念講演会

◆緊急救助活動

平成17年4月25日、9時18分でした。事故現場から約50メートルの所にいた従業員が異常な衝突音に気づき、3名が現場に急行しました。あまりにひど



▲緊急救済活動時の様子

い状況を見て、直ぐ引き返し安全担当者の判断で約30名が一斉に駆けつけました。同時に安全責任者の総務部長が、飛んで行き、あまりに悲惨な事故の連絡を受け、私も現場に猛烈なスピードで往復して確認し、私の判断で操業を中断することを決断したのです。

全社員を食堂に集めて事態を説明し、直ちに操業を停止し2次災害に注意して全員救助活動に当たれと命令しました。この間約20分、職場に帰って各自が必要な機材を持ち出し、一斉に約230名が救助活動を開始しました。

阪神淡路大震災で経験した通り、極めて大事なことは、一刻も早く被災者を病院に運ぶことです。そこで、社用車・トラックを動員して、近くの数箇所の病院に被災者を搬送したのです。

その後続々とプロの救助隊が到着したので、12時には1、2両目からの救助活動は民間人としては限界と判断し現場から撤収しました。この間に病院へ搬送した負傷者は91名で、12時30分には搬送も全部終わったので、救助活動の終了を命令し、午後1時からは各自職場に復帰して、何事も無かったように黙々と仕事を続けたのです。

◆民間人の代表として受賞

107名が死亡し500名以上が負傷する大惨事から1ヶ月ほど経って、我々の救助活動に対する報道関係の分析結果が続々報道され、その全貌が明らかになりました。

操業を停止し全社を挙げて救助活動に当たったこと、役割分担された手際よい救出活動などに対して全国から賞賛の反響が沸き上がり、各方面から各種の表彰を頂き、さらにに小泉総理から任期満了直前に、内閣総理大臣賞を頂きました。

福知山線の事故現場の沿線には小さい会社が沢山あり、これらの会社の方々も、また特段大きな怪我のなかった乗客も一生懸命負傷者の人命救助をされたので、私はわが社の代表ということでなく民間人の代表の気持ちで表彰を受けてきました。

◆何故、普通の社員に「想像を越す」救助活動ができたか

わが社の社員の行った行動はどのマスコミも「想像を越す救助活動」という報道をしています。どうして想像を越す行動に至ったのであるのかというのが、4月25日の後に私に突きつけられた命題でした。

新聞には役割分担のことが書いてありましたが、あの現場にただ単に大勢の人がバツと行っても有効な活動ができにくいという状況は皆さんもご理解できると思います。事実、社員は特別訓練をしていないし、事前にこういうことをやれと誰も指示はしていないのですが、現場を見ての判断で4つに分かれて行動したことが後でよく分かりました。

- 第1グループ……最初に駆けつけたメンバーで、機材を持ち込んで2両目の上によじ登るために、必要な梯子の長さを測って、それに合うものを持ち込んで救出しました。
- 第2グループ……被災者を安全な場所に運ぶ作業をしていました。一度に大量の人員が必要だったのですが、これをやってのけたのです。
- 第3グループ……役割は応急手当てでした。
- 第4グループ……社用車を使つての病院への搬送でした。

これを誰かが指揮してやるのは、あの現場では不可能です。それぞれが現場を見て、何をやるべきかを判断し、時々刻々変わる必要性に対応していったのです。最初は安全な場所に移動し、更に安全な病院への搬送など、必要な処置を社員が皆判断をして行動しました。私は非常に自律した行動だったと後で分析しています。見事に約230名の社員が4つに分かれて3時間行動したのは、極めて立派な社員だったと思っています。

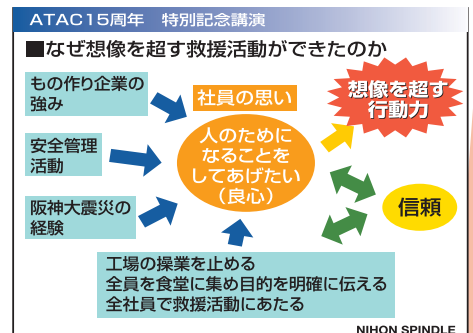
幸い尼崎のこの地区には5箇所の大きな病院があり、恵まれていましたが、道路が混んでおり、当社の工場内を解放し、多くの被災者を搬送することができました。

全く知らない者同士が200人以上集まってもあの救援活動はできていなかったと思います。知った顔が集まると共同作業ができます。そうしたことが大きな成果に繋がったと感じます。

「そういうことを繋ぎ合わせて私のまとめを図で示します」との前置きで救助活動の成功要因に関する全てを一つの図にまとめて、分かりやすく説明され(下記図参照)齊藤社長自らの貴重な体験談を終わりました。

災害に際してのトップの役割と決断、社員同士およびトップとの信頼関係が如何に大切か、その結論を一目瞭然の図で示され、中小企業にも大きな示唆を与える講演で、参加者一同感動に浸った1時間でした。

(田頭記)



▲救助活動の成功要因をまとめた図

総合表面処理メーカーとして、 各種産業に貢献します！

株式会社 野村鍍金
代表取締役社長 野村 修平

弊社は、電気めっきを基軸とした各種表面処理加工と、製紙、製鉄、フィルム、印刷機械などの産業機械用ロールの製作を行っている会社です。お客様に必要な機械ロールを、設計から鉄心製作、表面処理、最終鏡面仕上げまで一貫して社内生産できるのが大きな特徴で、世界的にも類の無いロールメーカーであると自負しております。特に近年では、液晶用フィルム製造などにかかわる重要な大型ロールの製作が多く、この分野においても私どもの技術が高く評価されております。そして常に新しい皮膜の研究に余念がなく、さまざまな合金めっき、セラミック皮膜、フッ素樹脂皮



膜、超硬質薄膜の開発も成功しております。お客様の求められる機能をデザインし、ハイブリッド皮膜としてご提案できるのも弊社ならではのユニークさであると思います。ぜひ弊社ホームページをご覧ください。どのようなことでもお声をかけていただければ幸いです。



▲長尺ロール



▲大型ドラム

株式会社 野村鍍金

〒555-0033 大阪市西淀川区姫島5-12-20
TEL 06-6473-1355 / FAX 06-6471-1308
URL <http://www.nomuramekki.com/>



鹿沼工場

ATACの 内容

本会は長年の経験により独自の技術とノウハウを有する技術者・管理者を結集し、お互いの知恵を出しあい、学習しあい、ネットワークを活用するとともに、中堅・中小企業が抱える国際化、技術開発、人材育成等の諸問題の解決を支援することにより中堅・中小企業の発展に資することを目的とする。

～ATAC規約第2条より～

ATACは上記の目的に則り、これまで14年にわたり中堅・中小企業の発展のために数々の活動を推進してきました。その主なものを挙げますと

1. コンサルティング

ATAC活動の大部分を占める業務で中堅・中小企業の抱えるさまざまなテーマについて450件以上のコンサルティング業務に携わってきました。

2. セミナー開催・講師派遣

ATACは従業員教育、経営管理、ISO関連、品質管理などのセミナーを企画・実施し好評を博しています。また、講演会・研修会などへの講師派遣も行っています。

3. 書籍刊行

中堅・中小企業の発展に役立つため、これまでに刊行した書籍は下記の通りです。

- ① ATACの経営便利帳
- ② 現場の課題解決はこうする
(中堅・中小企業の業務改善事例)
- ③ 中堅・中小企業へのATAC提言集
 - ① 新商品開発のヒント
 - ② ISO9000認証取得の手引き
 - ③ ISO14001認証取得の手引き
 - ④ 中小企業のためのIT
 - ⑤ 材料選択の手引き
 - ⑥ 設計を考える
- ④ 目からウロコのアドバイス ～中小企業経営者への提言～

4. NASCA (産学連携のお手伝い)

企業の技術ニーズをお預かりして、最適な技術シーズを持つ大学や研究機関などを探し、ご紹介する業務です。

5. 公的支援情報送信サービス

ご希望の企業に、国や府県等による研究開発補助金等の公的支援募集情報をタイムリーに分かりやすくe-mailやFAXで無料配信する業務です。

新たに公的支援情報送信サービスをご希望の企業の方は下記の申込書にご記入の上、FAX (06-6443-5319) でお申し込みください。

公的支援情報送信サービス新規申込書	
企業名	
所在地	
担当者	
TEL	
FAX	
E-mail	
公的支援情報送信先(どちらかに✓してください)	
<input type="checkbox"/> FAX	<input type="checkbox"/> E-mail



ATACニュース第17号に関するご意見、および今後のご要望をどしどしATAC事務局までご連絡ください。

ATAC事務局

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4
(財)大阪科学技術センター 技術・情報振興部
TEL 06-6443-5323 FAX 06-6443-5319 e-mail: atac@ostec.or.jp

ATACホームページもご覧ください

URL <http://www.atac.ne.jp>